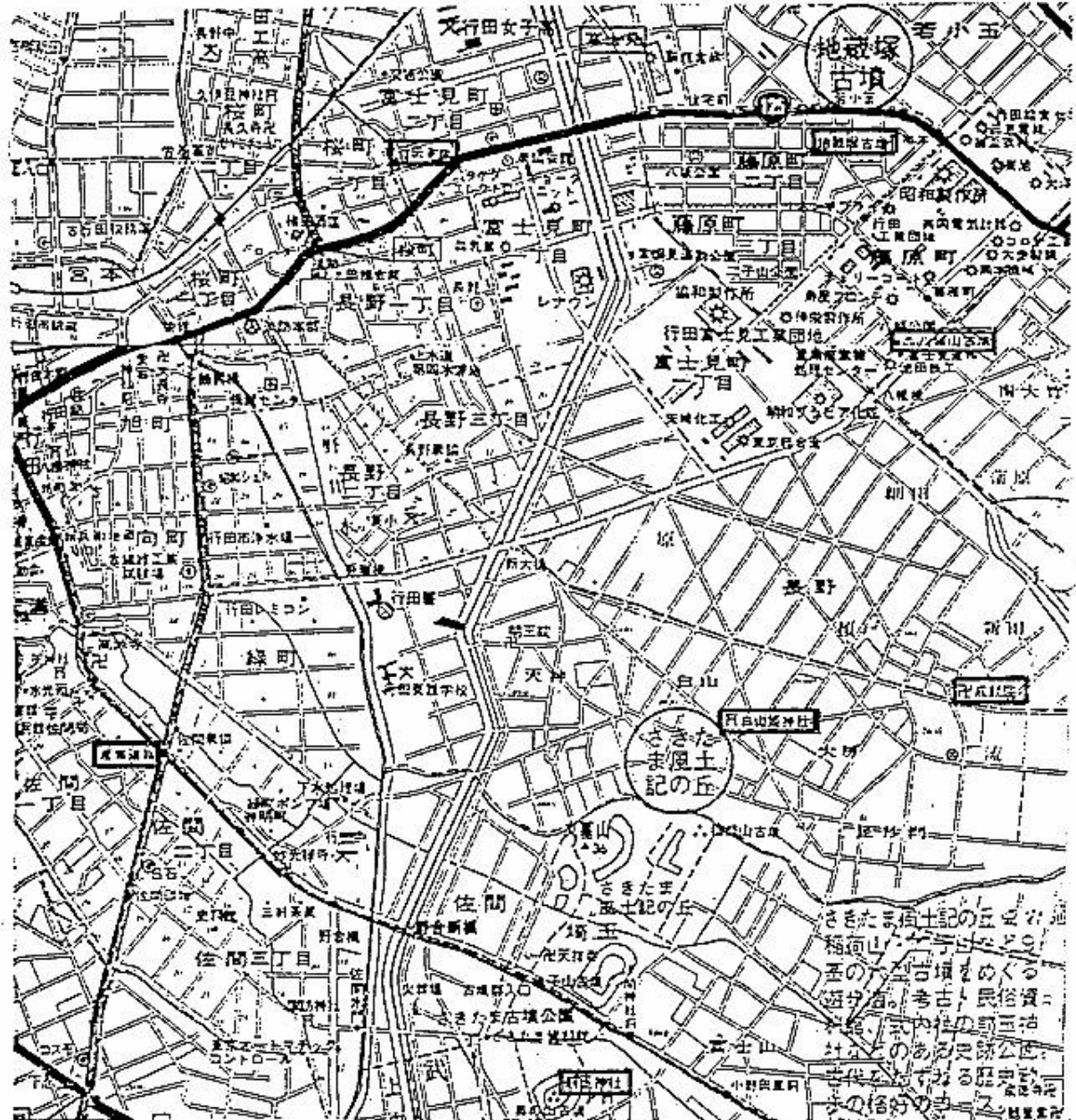


平成十年二月二十二日（日）

第二五〇回 史跡めぐり 資料

さきたま古墳群を見直す

越谷市郷土研究会



平成十年二月二十二日(日)
第二五〇回 史跡めぐり

さきたま古墳群を見直す

集合 午前8時・JR南越谷駅前

コース 南越谷駅⇨南浦和駅⇨浦和駅

⇨吹上駅⇨産業道路⇨さきたま古墳群(愛宕山古墳⇨瓦塚古墳⇨さきたま資料館⇨奥の山古墳⇨中の山古墳⇨前玉神社⇨鉄砲山古墳⇨二子山古墳⇨昼食⇨将軍山古墳展示館⇨稻荷山古墳⇨丸墓山古墳)









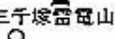
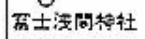
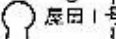
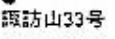











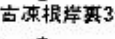
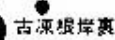

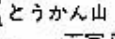


















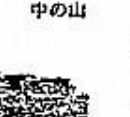

⇨白山古墳⇨成就院⇨八幡山古墳⇨地蔵塚古墳⇨行田車庫⇨吹上駅⇨浦和駅⇨南浦和駅⇨南越谷駅

⇨解散

参加費 3,500円 昼食各自持参

案内者 幹事 宮川 進

吹上駅

児玉地方	比企地方	埼玉地方	参考とする古墳	備考
 猿山	 諏訪山29号  山の根1号  山の根2号		千葉・北作2号墳 群馬・前橋八幡山古墳 神奈川・真土大塚山古墳	 鏡山  川輪聖天塚
<ul style="list-style-type: none"> ○長坂聖天塚 ○川輪聖天塚 ●志戸川 ●金銀神社 ●公御塚 ●生野山將軍塚 ●生野山9号 ●美里諏訪山 	 高坂諏訪山  天神山  三千塚雷蔵山  富士凌岡神社  野本將軍塚  諏訪山33号		群馬・別所茶臼山古墳 茨城・鏡塚古墳 群馬・太田天神山古墳 栃木・東谷菅塚古墳 群馬・岩鼻二子山古墳 栃木・堅利支天塚古墳 栃木・琵琶塚古墳 群馬・前橋二子山古墳 千葉・金鈴塚古墳 群馬・八幡観音塚古墳 栃木・壬生平塚古墳	土師器・五領I期 土師器・五領II期 土師器・五領III期 土師器・五領IV期 土師器・和泉I期 土師器・和泉II期 須恵器(TK23~TK47) 土師器・鬼高I古期 須恵器(MT15~TK10) 土師器・鬼高I新期 須恵器(MT85~TK43) 土師器・鬼高II古期
 生野山鏡子塚  生野山16号  長沖31号  白岩鏡子塚  白岩3号  秋山  諏訪山  大仏二子塚	 井天山  おくま山  岩鼻1号  古原根岸裏3号  古原根岸裏9号  馬山  とうかん山  長塚  岩宮八幡	 音沼9号  内牧4号  目沼磯原塚  目沼浅間塚	群馬・八幡観音塚古墳 栃木・下石橋愛宕塚古墳 群馬・宝塚山古墳	須恵器(TK209) 土師器・鬼高II新期 須恵器(TK217) 土師器・鬼高III古期
 御手長山  塚本山12号  塚本山9号  前原愛宕山	 秋葉山  諏訪山3号  柏崎4号  柏崎6号  古原4号  吉見茶臼山			 冠冠山  鏡塚  中の山
	*古墳の白ヌキは地輪を持たない古墳			 土師器・鬼高II新期 鏡尺 0 300mm 八幡山

年	南武蔵地方	北足立・入間地方	埼玉地方	児玉・秩父地方
200				
300				
400	稲荷前16号 高野台2号 白山 龜甲山 野野神社			坂1号 塚2号
500	観音松 蓮葉山 稲荷前1号 新居里 圓福寺 野毛大塚 朝光寺原1号 御岳山 白嶽山	高橋河 殿山 白嶽山	とやま 稲荷山	横塚山
600	龜塚 浅間神社 多摩川台2号 瀬戸ヶ谷 富士神社 三保杉沢 観音塚 大久保 かねやま 沿鉢山	一夜塚 下小坂3号 西台7号 杉塚 大久保 かねやま ひき二塚 三島神社 西原 板戸管電線 關塚4号 下小坂 岡山 牛塚	二子山 丸菱山 鉄砲山 酒巻1号 愛宕山 瓦塚 將軍山 真の山 板高山 永明寺 毘沙門山 極道川 天王山塚	鐘塚 女塚 伊勢山 柴田2号 三尻二子塚 野原 黒田1号 四十坂 夷稲荷
700	馬鍋	小堤山神 大塚 南大塚山王塚	中の山 白山 浅間山 八幡山 戸場口山 地藏塚	菅野大塚 宮塚

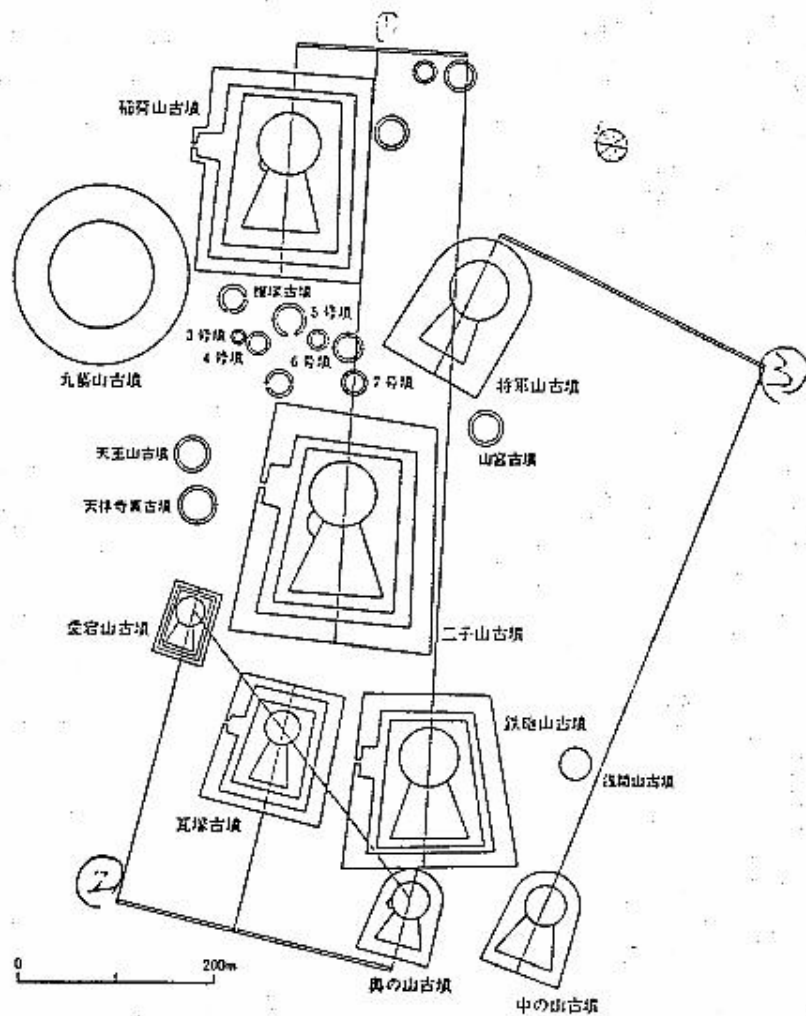


図17 埼玉古墳群の模式図

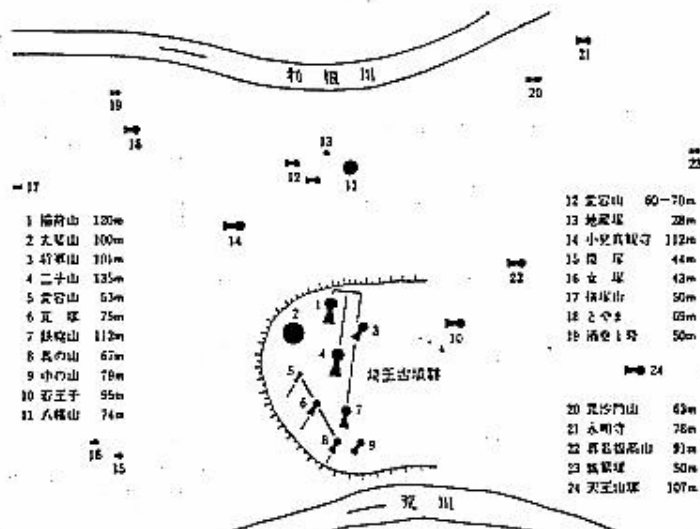


図14 埼玉古墳群と周辺の主要古墳



5

利根川

行田市

原村

天淵寺

5

B

C



さきたま古墳群・それぞれの古墳のプロフィール

1. 愛宕山古墳

全長 53.0 m さきたま古墳群の中で最小の前方後円墳。県内では中規模クラス。円筒、人物、器財（楯、大刀、衣蓋など）埴輪が出土。

① 2. 瓦塚古墳

全長 74.5 m ブリッジ付近で人物（弾琴男子、武人）器財（楯、家など）埴輪が出土。その配置も推定できる。

② 3. 奥の山古墳

全長 66.5 m 後円部に造り出し。墳丘が高く、他のものと異なる。

③ 4. 中の山古墳

全長 79.0 m さきたま古墳群の中で最後を飾る前方後円墳。將軍山古墳との相似形はこの古墳だけ。須恵質埴輪壺が出土。ふつうの埴輪はでていない。この須恵質埴輪壺は25 kmほど離れた寄居町末野の須恵器窯跡で全く同形のものが出土。

④ 5. 鉄砲山古墳

全長 112.0 m 円筒、形象埴輪が出土。

⑤ 6. 二子山古墳

全長 135.0 m さきたま古墳群中で最大、埼玉県内でも最大。造り出しも大きい。埴輪樹立の場。稲荷山古墳の次に築造された。

⑥ 7. 將軍山古墳

全長 101.5 m さきたま古墳群の中で最後の大型古墳。6世紀末の築造が推定。大山古墳（大阪府。伝仁徳天皇陵）＝稲荷山古墳タイプとは異なる。中の山古墳とは同タイプ。千葉県富津市内裏塚古墳群の古塚・三条塚・稲荷山の3古墳が同形。出土品としては銅わん、馬冑、蛇行状鉄器、が必見。房州石（千葉県富津市金谷付近の産）や秩父産の緑泥片岩を使って横穴式石室をつくっている。

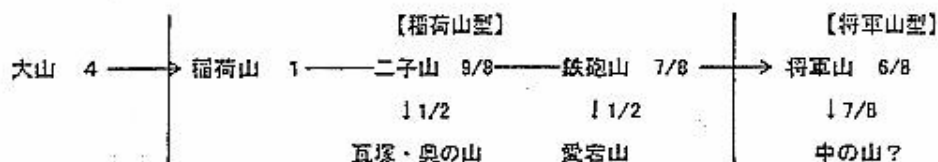
8. 稲荷山古墳

全長 120.0 m さきたま古墳群の中で最初にできた。あの鉄剣を出土した磯部と盗掘にあった粘土槨の二つの埋葬施設が発見されている。前方部の土を全部とられているが、埼玉県では盛土修復計画あり。
築造時期は5世紀末か。

⑦ 9. 丸墓山古墳

径 102.0 m さきたま古墳群の中の大型古墳では唯一の円墳。円墳としては日本最大。土量としても二子山古墳をはるかに超える。円筒、形象埴輪が出土。稲荷山古墳のすぐ後に築造されたか。

ここで、稲荷山の全長を1とすると、二子山は9/8、鉄砲山は7/8、將軍山は6/8となり、これらの首長墓系の古墳は、稲荷山の1/8が単位となって、墳丘の大きさが決定されているようである。ちなみに、中の山が「將軍山型」とするならば、將軍山の7/8の大きさとなり、ここでも1/8が一つの単位となっている。以下で各古墳の規模をまとめておく。



このように、埼玉古墳群の前方後円墳は、極めて規格的に造営されていることがわかった。

さて、「稲荷山型」は大山古墳と相似形を成していたが、「將軍山型」にはモデルがあったのだろうか。6世紀になると、全体的に畿内の前方後円墳は、後円部の径が小さくなり、前方部幅が広がる傾向にあるが、「將軍山型」と相似形となる古墳は畿内では今のところ見いだしていない。しかし目を房総に転じると、富津市内裏塚古墳群の中で、古塚・三条塚・稲荷山の3古墳が「將軍山型」と同類である(図50)(原図は【文献3】)。この古墳群では内裏塚や九条塚などの6世紀前半までの古墳は「稲荷山型」と類似しているが、6世紀中頃以降に造られた上の3古墳は「將軍山型」に変化している。このような変化は埼玉古墳群と一致した現象であり、この地域に隣接する海岸で採取される房州石が、將軍山古墳の石室の石材に使用されていることと考えあわせ、房総の豪

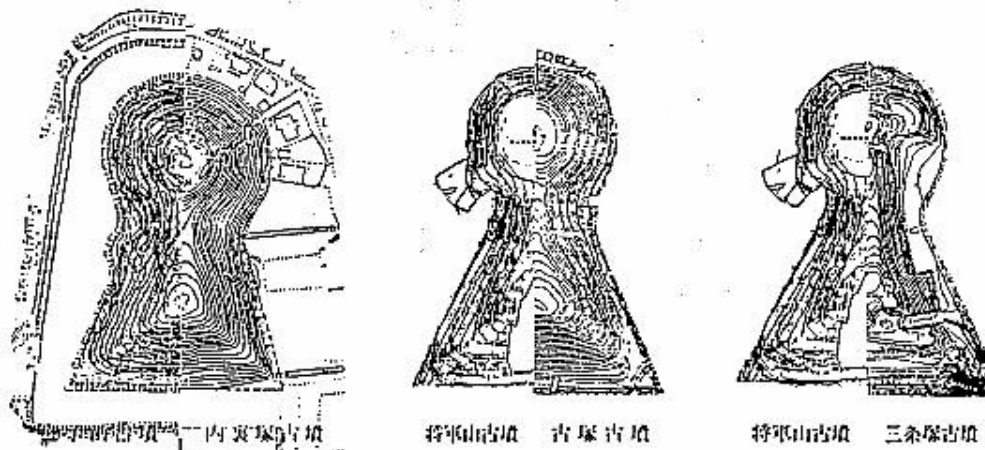
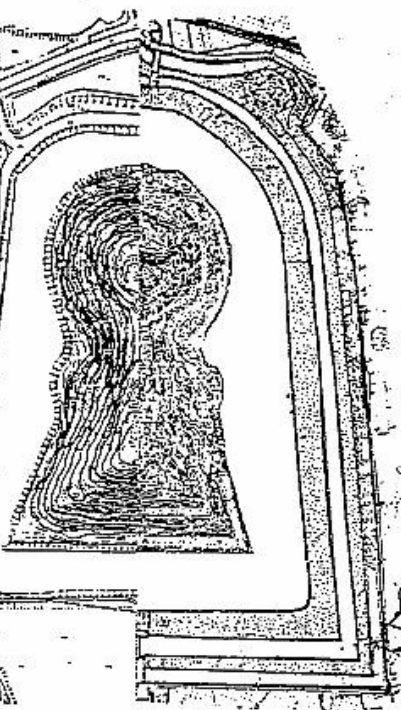


図50 埼玉古墳群と内裏塚古墳群の前方後円墳の比較

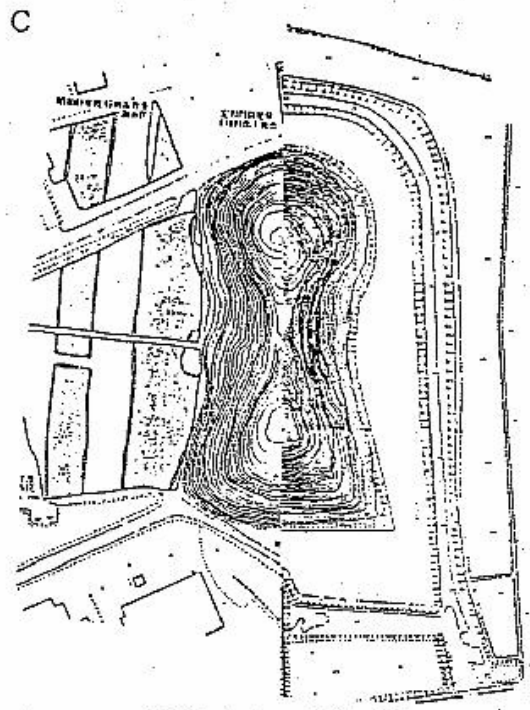
族との関連が想定される。

なお「稲荷山型」に比べて、この「將軍山型」は周囲の古墳にあまり影響を与えなかったようである。さきたま周辺の大形前方後円墳としては、6世紀前半の氷明寺古墳、6世紀後半の真名板高山古墳・天王山塚古墳、6世紀末ころの小見真観寺古墳があり、いずれも墳丘の変形が激しいため明確ではないが、「稲荷山型」に属する可能性が高い。横穴式石室の項で述べるように、將軍山と類似する片袖式の横穴式石室をもつ古墳が、「將軍山型」である可能性もあるが、いずれも墳形の変形が著しく現状では確認できない。

毛野地域の古墳との比較は十分に行ったわけではないが、今のところ「將軍山型」の古墳は管見に触れていない。



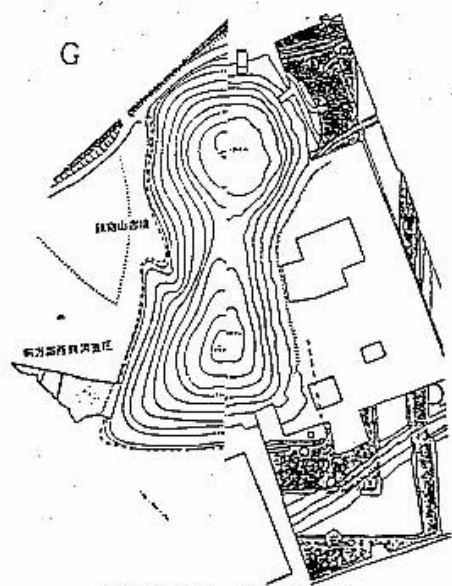
二子山古墳 大山古墳



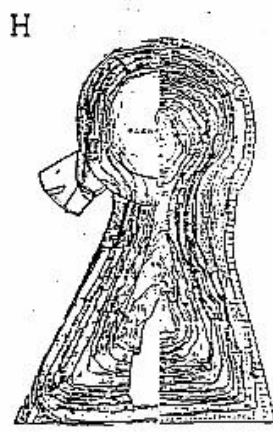
瓦塚古墳 二子山古墳
1 : 2



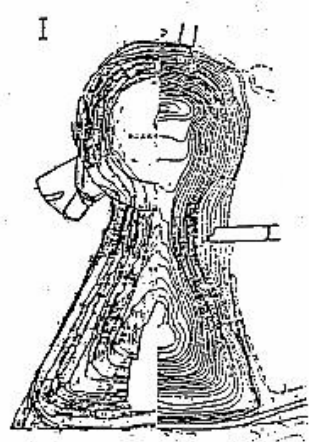
奥の山古墳 二子山古墳
1 : 2



鉄砲山古墳 愛宕山古墳
2 : 1

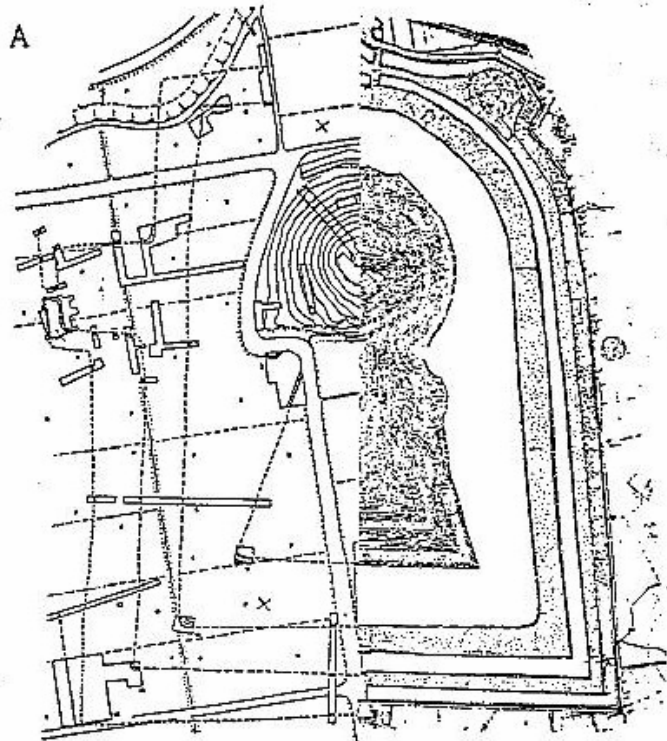


將軍山古墳 二子山古墳

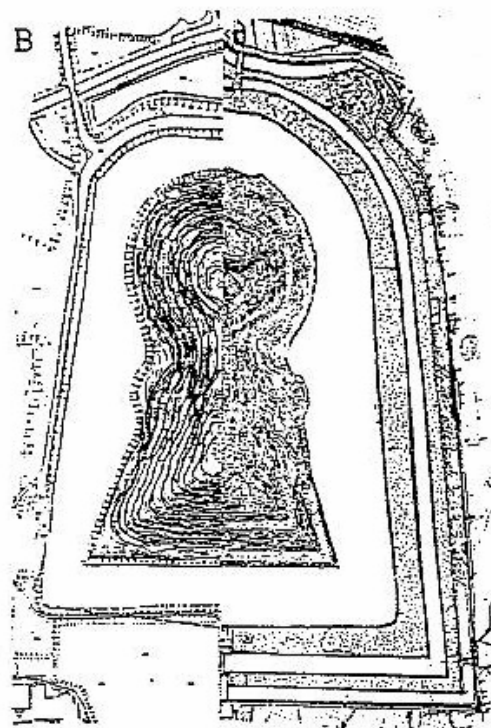


將軍山古墳 中の山古墳(反転)

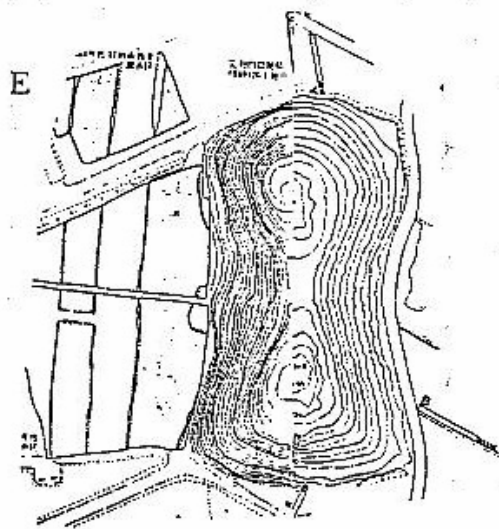
図49 埼玉古墳群前方後円墳の比較



稲荷山古墳 大山(徳仁徳陵)古墳
1 : 4



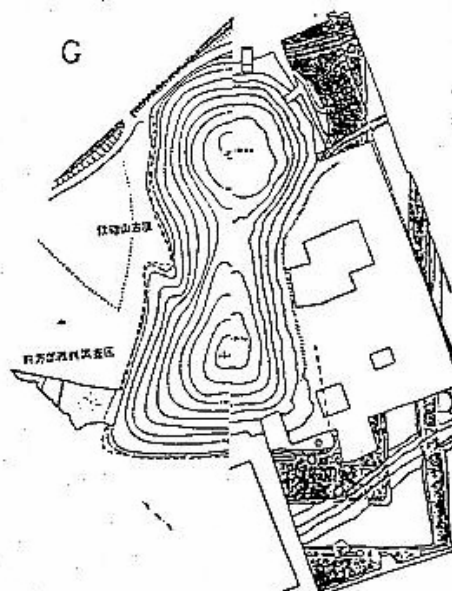
二子山古墳 大山古墳



瓦塚古墳 奥の山古墳
1 : 1



二子山古墳 : 鉄砲山古墳



鉄砲山古墳 委宿山古墳
2 : 1

図49 埼玉古墳群前方後円墳の比較

以上のことから、少なくとも次のようなことが考えられるだろう。5世紀後半に北武蔵地域に突然現れた稲荷山古墳の被葬者は、金錯銘鉄剣にみられるように、大和の肝煎りで武蔵国で最も大きな権力をもった豪族になった。墳墓も畿内以最火の火山古墳をモデルに1/4の大ききで築造し、その後も稲荷山の形態を基本に次々と築造していった。しかし6世紀後半に將軍山古墳に横穴式石室を導入することになり、新たに設計方針を変換したのが「將軍山型」であったのだろう。この変化が何を意味するのかはわからないが、房総の古墳と期を一にして墳形を変化させていることから、第三者すなわち大和の管理のもとで行われたものと考えられる。おそらく埼玉古墳群の被葬者は、常に房総を通して東海道経由で大和とつながっていたのであろう。これは上毛野の古墳と全く築造規格を異にしているのとは対照的な現象であり、大和の東國経営のようすの一端をここから読み取ることができるともかもしれない。

しかし、この「將軍山型」は周囲の古墳にあまり普及しないまま消滅しているのは、この時期になると、さきたまの豪族の権威が次第に衰弱してくることと関連するのではないか。官僚的な國家組織が編成されるにつれて、かつて上毛野に対抗する形で登場したさきたま政権も、その役目が終わりつつあったのだろう。

そして柳田は、共通する石材を使用する地域に、他の石材を用いた石室が存在する古墳は、特殊な存在と見做し得るとし、「例えば、埼玉古墳群のような場合、安山岩だけでなく緑泥片岩や房州石などを使っている古墳があるが、それは特殊に属すると解釈するわけである。こうした特殊な古墳は他よりも一段と上の勢力又は力をもった人の古墳であろうということが考えられる」としている。

六 古墳時代後期の埼玉古墳群を取巻く政治状況

まず、埼玉古墳群周辺を注目してみよう。天王山塚古墳の造営時期は、將軍山古墳より若干遅れた6世紀第4四半期が想定されている。若松良一の研究によると、將軍山古墳と天王山塚古墳は同一設計によって造営されていることから、その被葬者は北武蔵の伝統的勢力に連なる者であるという。しかし、石室の石材は直接産出地から運ばれていることから、天王山塚古墳の被葬者と上毛野国の首長層との間に、政治的交渉があったものと推察する。そして、將軍山古墳（九二メートル）が築かれた頃に、埼玉古墳群の南東一三キロの位置に、それを上まわる規模の一〇四メートルの天王山塚古墳が、東方三・五キロには九〇・五メートルの真名板高山古墳が、北方二・五キロには九五メートルの若小玉古墳という三基の大規模前方後円墳が、埼玉古墳群を包囲するように出現する現象をそれ以前の埼玉古墳群の絶対的優位性と比較し、政治的変動があったと捉え、その背景として畿内政権による埼玉政権の勢力分解政策があったと解するのである。

1. あの鉄剣の〈おわけのおみ〉とは？

埼玉出身の豪族で、ヤマトへ行って、天皇の親衛隊隊長となった人なのか。それとも、ヤマトの豪族のひとりなのか。その場合、本人が「さきたま」へ来て葬られたのか、その人がつくった剣をもらってきた埼玉出身者がここに葬られたのか。

2. 稲荷山古墳の本当の主人は？

これまでに調査された礫塚と粘土塚ともに、あまりにも表面に近すぎる。これらの下に、本当の主体部があるのではないかということがいわれている。本当にあるのか、あるとすれば、そこに葬られた人は、鉄剣を持って葬られた人とはどういう関係なのか。

その人は、さきたま古墳群をはじめた人なのだが、地元出身の人なのか。ヤマトから派遣されたヤマトの人なのか。千葉の方から来た人なのか。

3. 稲荷山系列と愛宕山系列

「稲荷山＝二子山＝鉄砲山」の系列と「愛宕山＝瓦塚＝奥の山」の系列とは、どういう関係なのか。第一の権力者とこれを補佐するナンバー2なのか。

4. 将軍山系列と他の系列との関係は？

「将軍山・中の山」は古墳のかたちも他と違うようだが、他の系列との関係は？

5. 将軍山と同時期の古墳の関係

将軍山古墳と同時期に「さきたま古墳群」外に築造された小見真観寺古墳、真名板高山古墳、天王山塚古墳では、すこし、将軍山古墳が小さいのだが、これは「さきたま」勢力の没落を示しているのか。彼等の関係は？

6. なぜ、だれが「さきたま古墳群」をつくったのか

それまでは古墳の空白地帯だった、この地域に、なぜ、だれがこんな大規模な古墳群をつくったのか。ヤマト朝廷の意向が働いたのか、利根川の北の、当時、強力だった毛野の国をおさえるための勢力だったのか。

7. なぜ、丸墓山だけが円墳なのか

大型古墳のなかで、なぜ、丸墓山だけが円墳なのか。ここに葬られた人だけが、なぜか、前方後円墳をつくらせてもらえなかったという説もあるが。

8. 将軍山古墳出土の馬冑は、どういうルートできたか

この馬冑が韓半島由来のものであることは疑いなかろう。しかし、これが、埼玉の、この地へどういうルートで来たのだろうか。この地から向こうへ行った人がいて持ってかえたのだろうか。ヤマト朝廷からの贈物だったのか。かの地と直接交渉があったのか。

9. さきたま古墳群の系列の人達は何処へいったのか

中の山古墳を最後として、この「さきたま」には大きな古墳はつくられなくなったが、いままで、古墳をつくっていた人達は何処へいったのか。そのあと、付近に八幡山古墳という凄い内容の古墳ができたが、これをつくった人はさきたま古墳の人達とは関係なかったのか。子孫だったのか。

10. 日本書紀・安閑天皇紀の記事との関係は？

武蔵国の国造・笠原の直・使主は同族の小杵と国造の地位を争い、小杵は上毛野君・小熊に救援を求めて使主を殺そうとした。使主は都に逃れて、これを朝廷に訴えたところ、朝廷は使主に国造の地位を保証し、小杵を誅罰した。使主はこのお礼に横淳、橘花、多氷、倉樎の屯倉を朝廷に献じた……。このような記事が日本書紀・安閑天皇紀にある。時代は「さきたま」の時代のあとのことになるが、強大化した毛野勢力とヤマト朝廷・武蔵の関係を象徴化した話とすると、「さきたま古墳群」と関係がないこともなさそうだが…。

式内社・前玉神社

しきないしや 式内社「延喜式」卷九・卷十の、いわゆる「神名帳」「神名式」に登録されている神社のこと。詳しくは延喜式内社というが、一般に式内社「しきないのやしろ」、式内社、略して式内・式社という。また、「神名帳」に登録されない神社を式外社「しきげのやしろ」、式外社「しきげしや」、略して式外という。「神名帳」の冒頭に「天神地祇惣三十一百卅二座、法三十八百六十一処、前二百七十一所、大四百九十二座、三百四座(並前所年、月次、所管等祭之案と官幣、社中七十一所、所管等祭之案と官幣、社中七十一所、小二千六百四座、四百卅三座(並前所年突下官幣)、一千二百七座(並前所年回幣)」とあるように、全国五十七道に散在する天神地祇、すべて三十三座を登録してある。

武蔵国式内社一覧

以下のとおり、43の神社がのせられている。

① 長幡部神社	⑩ 高負比古社	⑳ オートツノ神社
② 箱尖池上社	⑪ 伊波比神社	㉑ 虎柏神社
③ 箱尖荒御魂神社	⑫ 横見神社	㉒ 布呂天神社
④ 今城青八坂箱尖神社	⑬ 玉津神社及官目神社	㉓ 穴沢天神社
⑤ 金佐茶神社	⑭ 前玉神社	㉔ 杉山神社
⑥ ミカ神社	⑮ タケトメ神社	㉕ 足立神社
⑦ 箱万売神社	⑯ 椋神社	㉖ 調神社
⑧ 榎山神社	⑰ 秩父神社	㉗ 磐井神社
⑨ 小坂神社	⑱ 青渭神社	㉘ 蔭田神社
⑩ 白ガミ神社	⑲ 所伎留神社	㉙ 氷川神社
⑪ 奈良神社	⑳ 広瀬神社	㉚ 中氷川神社
⑫ 田中神社	㉑ 阿豆佐味神社	
⑬ 出雲乃伊波比神社	㉒ 出雲イハヒ神社	
⑭ 伊志乃逆御玉比売神社	㉓ 物部天神社及圓淵地祇社	
⑮ 高城神社	㉔ 小野神社	

(裏)

辛亥年七月中記乎獲居臣上祖名意富比境其兒多加利足尼其兒名呂巳加利獲居其兒名多加披次獲居其兒名多沙鬼獲居其兒名半呂比



(裏)

其兒名加差披余其兒名乎獲居臣世々為杖刀人首奉事來至今獲加多支國大王寺在斯鬼宮時吾左治天下令作此百練利刀記吾奉事根原也



金錯銘鉄剣

昭和五三年、稲荷山古墳出土品を保存処理中鉄剣をエックヌ線撮影したところ金象嵌の銘文が発見された。

鉄剣は全長七三・五センチ、剣身部の長さ五八センチ、幅三・一センチで、銘文は剣身部の表に「辛亥年……」からはじまる五七文字、裏に五八文字の合計一一五文字からなる。

鉄剣の成分には、銅やマンガンを含まれ、中国江南地方の鉱石成分と近く、素材は中国の地金をもとにして作られた可能性が大きい。

稲荷台1号墳(千葉県市原市)

茨老川右岸の台地上に、一二基以上の円墳で構成されている稲荷台古墳群中の最大規模の円墳で、直径約二七メートルの二段築成の古墳と考えられる。墳頂部には木棺埋葬の埋葬施設が二基検出されており、このうち中央部に位置する木棺から「三郎」銘鉄剣が出土した。

伴出の遺物には、須磨式短甲一・鉄剣二・鉄鍔一〇・胡録金具一・きざげ杖工具一・砥石一などがある。

墳丘と周堀からは、須磨器の杯身・無蓋高杯・膝・甕が出土している。時期は須磨器が大坂陶器窯跡群のTK二〇八型式に比定されることから、五世紀後半の早い時期とみられ、埼玉県稲荷山古墳に先行する。

〔表〕王賜□□敬□□(安)

(剣の意)

〔表〕王□□ヲ賜フ。敬ンテ因ゼヨ。

(吉祥句)

〔裏〕此廷□□□□

銘文の釈文

〔裏〕此ノ廷因ハ□□□□



撮影 水野正幸

稲荷台1号墳

江田給山古墳(熊本県玉名郡水町)

金長六二メートルの前方後円墳で、明治六年に發掘された横口式石棺の中から、金銅製冠帽・師殿(巻)・垂飾付耳飾・金銅製帯金具や甲冑・武器・武器・馬具・面文冠神獸鏡・持人馬面像鏡などの豪華な副葬品が出土している。

伴出した大刀には、七五文字の銀象嵌文字が刻まれていた。銘文中に「倭加多支因」や「眞吾人」の語句があり、稲荷山古墳と関連の深い内容を有し、オワケノオミと同様に被葬者は雄略天皇に仕えた人物と想定されている。

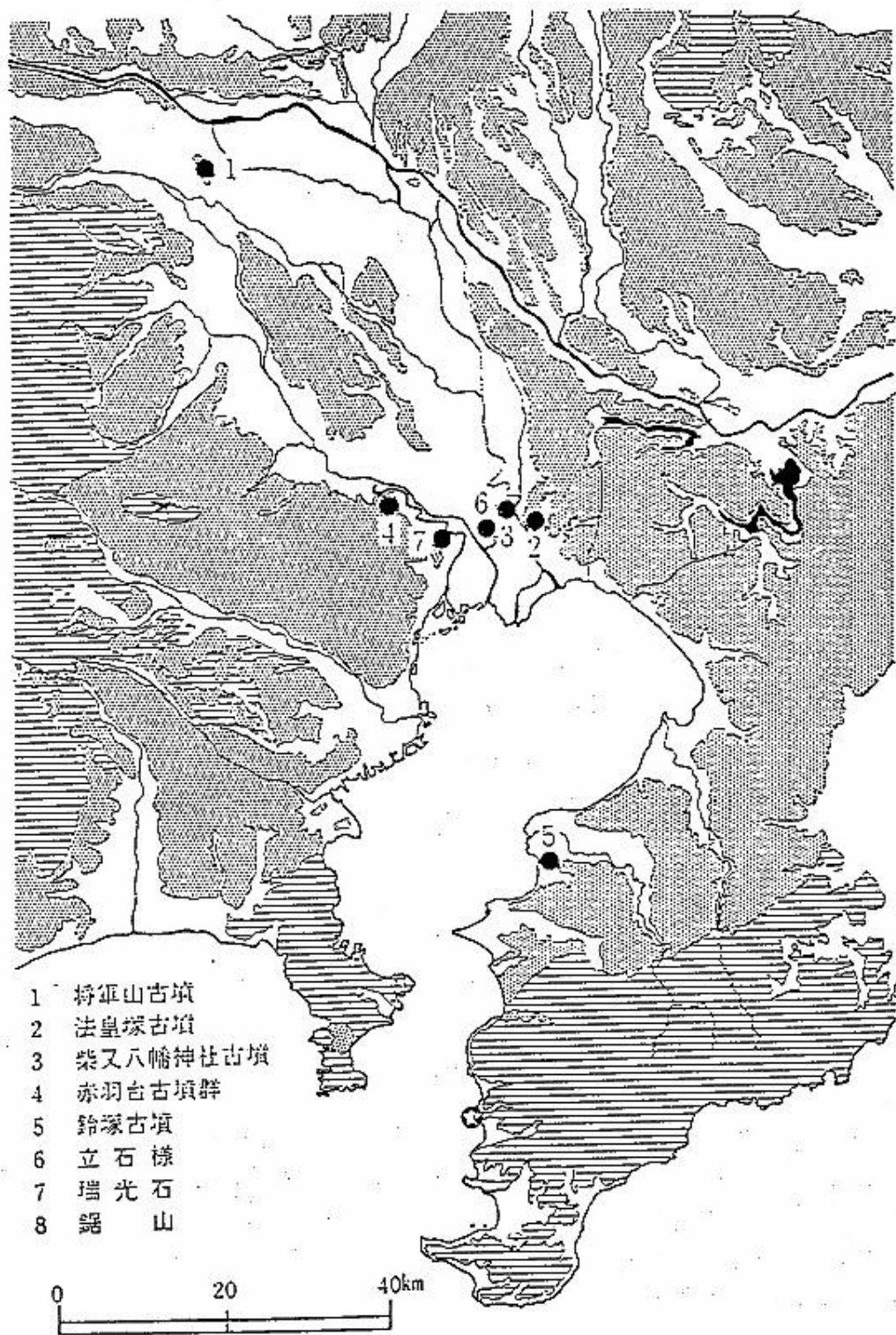
古墳の築造年代は、五世紀末から六世紀初頭と推定される。



江田給山古墳

〔治天下因□□□國大王

世奉□眞吾人名无□三八月
中用大鎗釜并四尺注刀八十
練六十指三寸上好□刀服此
刀者長壽子孫法々得其恩也
不失其所統作刀者名伊太利
審張安也



第2圖「房州石」使用古墳分布圖

申さん、先ほどの馬の冑は、どういうときに使ったものですか。私は馬は迷惑だったろうな、あんな重いものをかぶせられて、歩けたの、走れたのいわれたら、とてもたまったもんじゃなと思ひますが（笑）。

申 馬冑はもちろん重いものなので、馬がそれをかぶったら重いことは事実です。しかし、馬の種類によって違うと思います。日本の沖繩の馬とか、韓国の在来的な小さな馬では戦いません。運搬には使うかもしれませんが、騎乗用・騎馬用には不適切な馬でした。蒙古馬はたいへん力強い馬でしたので、それを戦闘用に使ったと思います。

ここで馬冑の系譜が問題になってきますが、全体的に騎乗用甲冑とか馬具は、初めは夫余など北方から入ってきました。馬冑自体は四世紀代の伽耶古墳・新羅古墳では発見されておりません。したがって、今のところ五世紀以降、発見されているので、高句麗から入手したか、学んだ可能性が高いと考えています。

申 北方騎馬民族の文化は四世紀代から古墳の中に多く反映されています。その前の弁辰の時代は中国の文化的な色彩が強くて、三世紀後半以降はその文化がほとんど北方騎馬民族の色あいに変わっていきます。その代表的な例は、殉葬、いろいろな武器、馬冑、騎乗用甲冑、蒙古鎧冑、挂甲、馬具および青銅製虎形帶鈎で、これらは北方系統です。

申 騎馬民族が本来来たのか来なかったのかということが、このシンボジウムの非常に大きな焦点だと思っています。金海で確認された木槨墓は北方民族の墓制です。鈴木先生は、講演で、北方の墓制が現れるのは文化の受容であるという意見を示されました。非常に失礼になるかもしれませんが、北方文化の受容による影響であるという表現は、専門的な学者でなくてもだれでもいえると思います。しかし、単なる文化の受容であれば、支配集団は変わらないし、前の集団の墓を壊すことはありません。ところが、新しい集団の墓が昔の墓を意図的に壊しています。

私は最近までいわゆる騎馬民族説に対して否定的な考えをもっていました。しかし、金官伽耶で北方の墓制が現れたときに前の王墓を破壊しているのが、支配集団は必ず一系ではないといえると思います。今や、北方文化的な木槨墓の出現から、その墓制の首長が、前代の首長墓を破壊しているという、金海大成洞古墳群の発掘調査の成果を、そのような新知見を尊重するうえで、考えなければならぬと思います。民族の移動があったかどうか。文化の受け入れは間違いないと思います。それ以上に支配集団の交代というものもあつたのではないかと。ですから、前時代の王墓を破壊し、新しい墓を築造したということになると思います。

もう一つ重要な点があります。それ以前、つまり狗邪国（三韓時代）までは日本と同じように殉葬の習俗はありませんでした。ところが、北方文物、北方の墓制が入ると同時に殉葬が登場するので、特定の民族と結びつけて考えることができます。

申 激しい祭言一巨大古墳と伽耶文化に一致するのには、五世紀に保

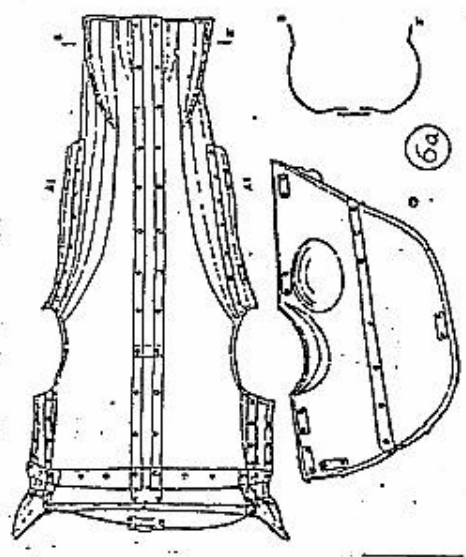
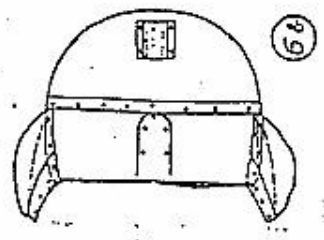
（慶星大学校助教授）

シンボジウムに於ける

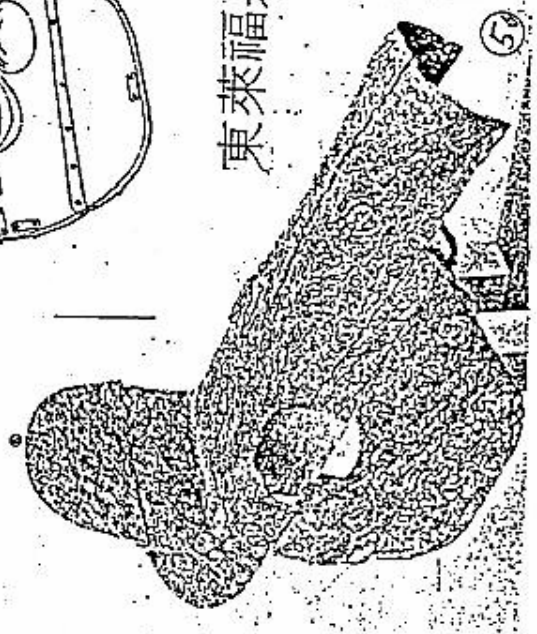
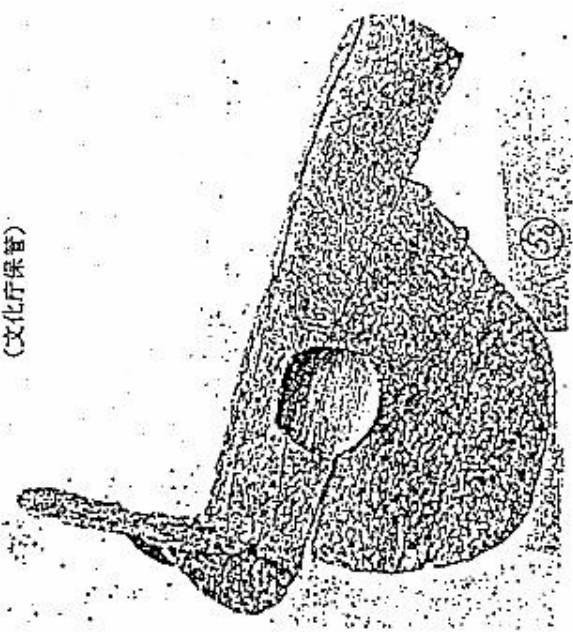
東萊福泉洞古墳

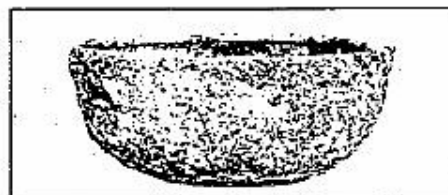
(B) 10号塚
トシキキ77471011
SU:794141

朝鮮半島出土 の馬具
8-5

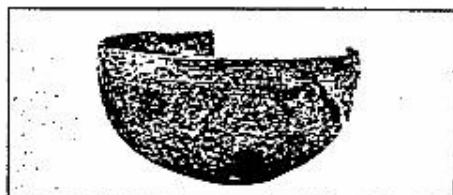


大谷古塚出土馬具
(文化庁保管)





銅鏡 將軍山古墳



銅鏡 將軍山古墳

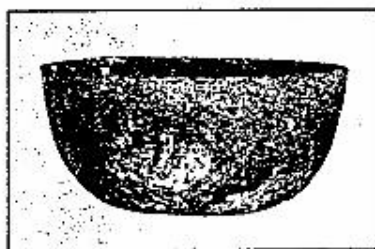
銅鏡 —— 分類・変遷・分布 ——

銅鏡は、半球形の銅製容器類で、全面に鍍金を施すものが多い。大きさや形から食器類にあたるものが多いと思われるが、日本では古代寺院の舍利容器の外装器具や火葬墓の蔵骨器など儀式用の荘厳具として使われるものもあるため古代豪族の仏教受容と関係があるとする説がある。

韓国ではかつての新羅・伽耶・百済の王墓と思われる古墳から銅製容器類が大量に出土したのもあり、そのほとんどは食器であった。な

かには、西暦5世紀初頭に遡るものもある。日本出土の銅鏡に類似する形のは6世紀後半～7世紀初頭の時期に集中しており、この時期に日本に渡来したものが多い。

日本の古墳では佐賀県島田塚古墳の6世紀前半を最古に、7世紀後半頃までの副葬品の中に含まれることが多い。数点副葬されるのは大型前方後円墳にほぼ限られるが、中小古墳や横穴墓からも出土している。分布は関東を中心とした東日本や北部九州に偏っている。



銅鏡 八幡山古墳

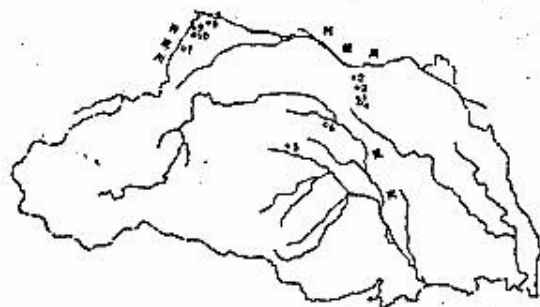


古墳出土銅鏡分布図

(毛利光俊彦「古墳出土銅鏡の系譜」『考古学雑誌』第64巻第1号より)

北武蔵の銅鏡

北武蔵地域の銅鏡は、出土の伝承を含めて11遺跡16例が知られている。さらに細かく見ると、さきたま古墳群の周辺に8例、奈良時代以降に「賀美郡」と呼ばれる現在の児玉郡上里町域に6例と極端に偏っている。さきたま周辺地域は大型古墳からの出土が多く、伝統的な豪族が自らの地位の誇示のために入手したものと思われる。「賀美郡」地域の銅鏡は中小古墳や集落出土のものも多く、渡来系氏族と関係が深いとする見解もある。



北武蔵地域の銅鏡出土遺跡分布図

1. 馬玉野原古墳 2. 小籠沢古墳 3. 新小玉八幡山古墳 4. 宮原古墳 5. 西原1号墳 6. 西原2号墳 7. 東原古墳 8. 成崎山古墳 9. 高野原古墳 10. 伏木古墳出土 (口は瓦土蓋不明)

北武蔵の銅鏡分布図(大谷徹氏による)

白山（はくさん）古墳

行田市長野字白山

埼玉古墳群の東方二〇〇メートルほどの所にあり、墳丘上に白山社が祀られている。標高一九メートルほどの微高地に位置している。

墳形は、行田市史によればかつては前方後円墳であったように記載されているが、現況からは円墳と見るのが自然で無理がなく、『埼玉県史』にも円墳となっている。径約三〇メートル、高さ三・五メートルほどである。埋葬施設の詳細は不明であるが、奥壁の一枚石と推定される立石が、墳頂に三〇〜四〇センチメートル突出している。また付近に安山岩の面どりの礎が散見されるので、後期後半に多い胴張りの横穴式石室と考えて間違いない。

この古墳は、古くから手をつけると祟りがあるといわれており、幾度か災厄があった。地元の協力を得て、昭和三四年市史編さん事業として発掘に着手したところ、その晩また火災が発生し、調査は中止になっている。

埼玉県史第一巻 昭和二六年。行田市史上巻 昭和三八年



墳丘近景

成就院 (真言宗智山派)

〒361 行田市大字長野7.618

TEL 0485-56-3786

本尊 不動明王

建物 ・本堂 ・庫裏 ・山門 ・三重塔

寺宝 ・三重塔(県文化財) ・板壁画

由緒 五智山と号す。

天正年間(1573~92年)に開山。

慶長年間(1596~1615年)に

堂塔落慶と伝えられている。

三重塔は享保年間(1716~36年)

に法印芳宥代によって建立された。

県内に現存する三重塔3基のうちの1

基で、昭和50年に県文化財の指定を

うけている。高さは10mで、一層に

須弥壇を設け、葉衣観世音菩薩を安置。

天井には格子ごとに花鳥の絵を施し、

左右両側には牡丹唐獅子が極彩色で描

かれている。



西福寺の三重塔

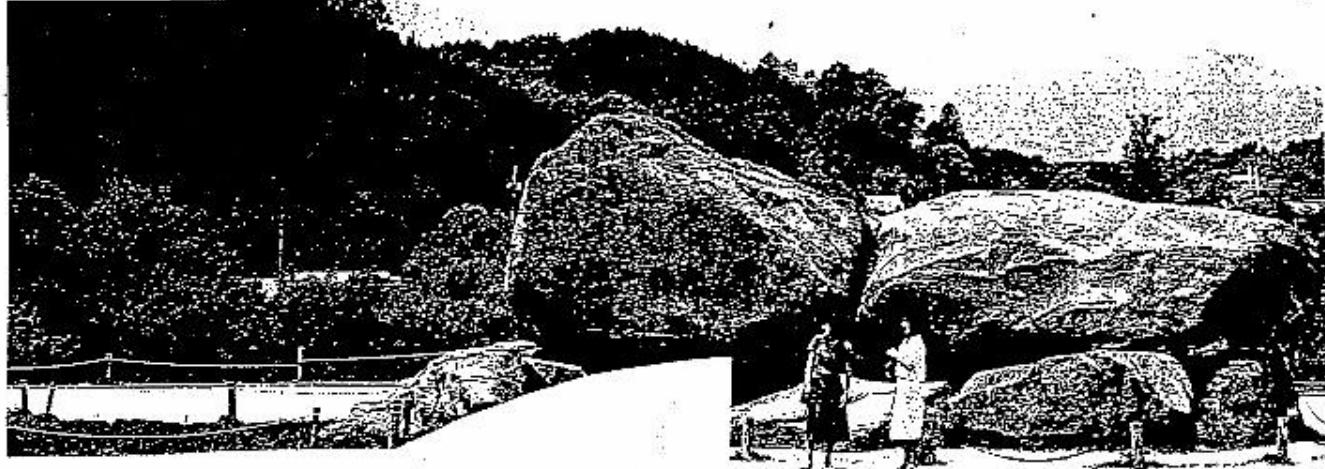


元禄6年(1693)三代將軍家光
の長女・千代姫の奉建。



安楽寺三重塔(埼玉新聞社提供)

寛文元年(1661)泉鏡法印の建立。



↑ 飛鳥の石舞台古墳

Ⅱ 7世紀後半 蘇我馬子の墓か。



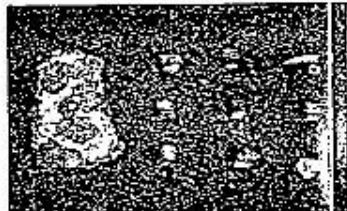
→ 関東の石舞台・八幡山古墳

Ⅱ 7世紀後半 物部連兄麻呂の墓か。



八幡山古墳

～7世紀中頃・県指定史跡～
円墳 直径74m



●塗漆木棺片

京国では唯一の出土例として注目されている。2.5cmの木部を芯にして外面を0.8mmの厚さに絹布10枚を漆で張り重ね、べにがらを塗り、仕上げに透漆を塗った精巧なものである。(1977年出土)

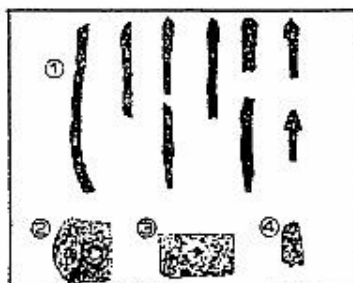
昭和54年に、こわれていた石室が復原され、巨大な横穴式石室が現存している。石室は、胴張り型で、前室・中室・奥室の三室に分れており、その全長は16.7m。側壁は巨大な緑泥片岩と安山岩で組み上げられ、天井石は長さ4m、幅2m、厚み0.6mの緑泥片岩が使われている。遺物は、乾漆器、銅鏡、須恵器、直刀、鉄鏃、八花形銅環座、鞘尻金具、銀製弓弭、漆塗木棺片、乾漆棺片(夾紵棺)が見られ(県立さきたま史料館展示)、特に、乾漆棺は絹布10枚ほど重ね、漆で固めたもので最高級の棺と推測される。夾紵棺の出土は奈良県飛鳥地方を中心に全国でも6例しかなく被装者はかなりの権力者と見られている。傍には万葉歌碑も建っている。



●八幡山古墳全景 関東一の巨大な横穴式石室を持つ古墳として有名。下図はその実測図である。



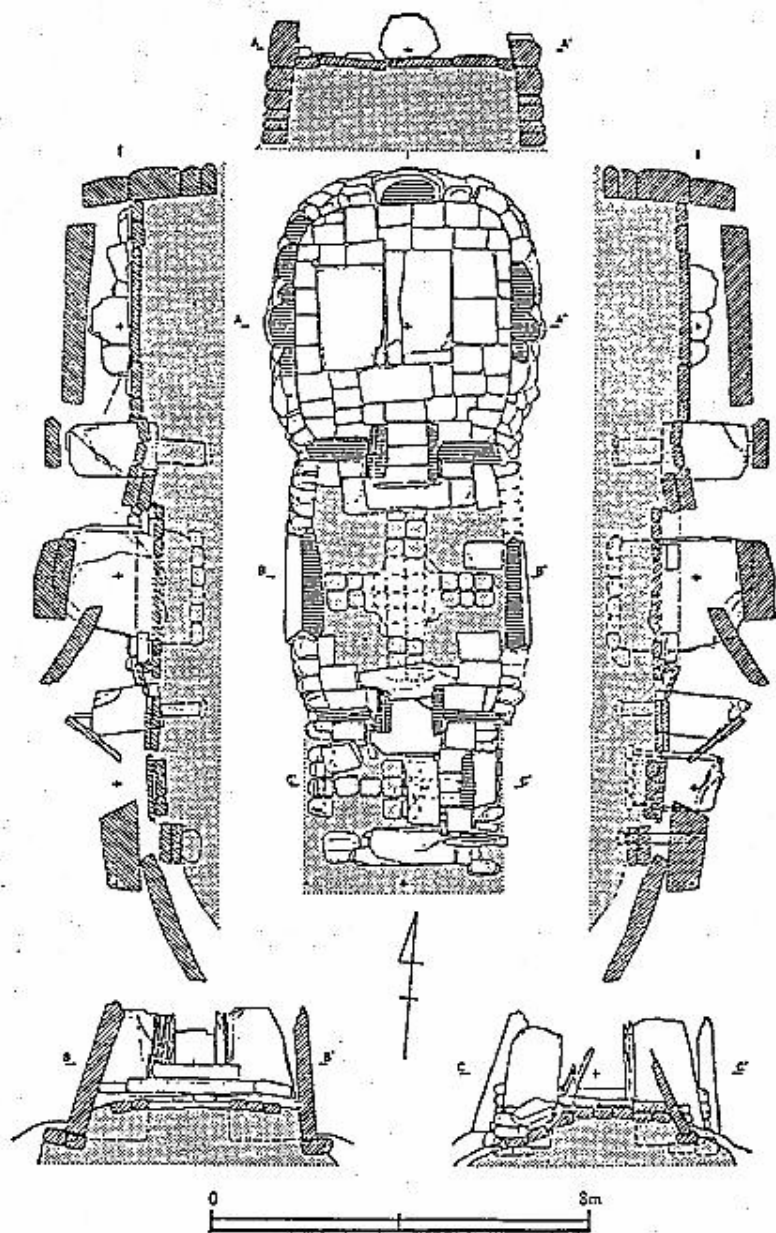
●須恵器長頸壺
(1935年出土)



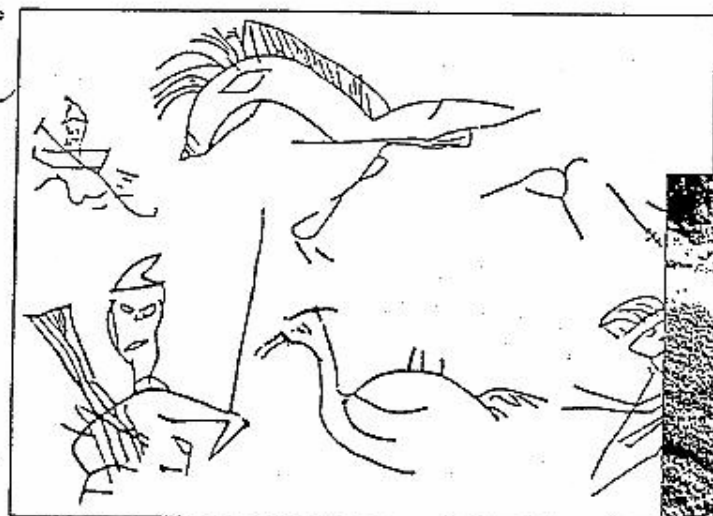
- ①鉄 鏃
- ②銅漆装方頭把頭
- ③金銅装鞘尻金具
- ④銀製弓弭金物片
(1977年出土)



●八幡山古墳石室内部
茨道部から奥室を望む。全長16.7m 奥室幅4.8mで、石室復原に先行して行われた、調査により、墳丘は直径74mの円墳と想定されている。



石室平面图



● 壁画の一部投影図



● 線刻画部分(水鳥)

地蔵塚古墳

～7世紀後半・県指定史跡～

方墳 一辺28m、高さ4.5m
 墳上に地蔵堂が建てられているところからこの名がある。石室はすでに江戸時代に開けられており、ただの横穴式石室だと、大して気にもとめられていなかった。しかし、昭和37年行田市教育委員会が、崩壊の進んだ石室の復原工事をしようと斜めに崩れ落ちた天井石を取り除いたところ、石の陰から、線刻壁画が見つかった。水鳥や、舟に乗った人物、馬、弓矢を持った人などが描かれていた。線刻壁画をもつ装飾古墳としては、関東地方でも珍らしく、県内では初めてである。

◎参考書

- 新編埼玉県史 資料編2 S57 埼玉県編集・発行
- さきたま古墳群 86・3 埼玉新聞社編集・発行
- 「さきたま古墳群とその時代」展図録Ⅱ古代東国の武人たちⅡ
H1・10 県立さきたま資料館刊
- さきたま將軍山古墳と銅鏡 展示解説書
H4・10 県立さきたま資料館刊
- さきたま 第8号 96・11 県立さきたま資料館刊
- 將軍山古墳(史跡埼玉古墳群整備事業報告書)確認調査編・付編
H9・3 県立さきたま資料館編 埼玉県教委刊
- 埼玉県史研究 第29号 埼玉県県民部県史編さん室編
H6・3 埼玉県刊
- 「伽耶と新羅の古墳を訪ねて」団体旅行案内書 伊藤秋男編 96・3
○韓国の古代遺跡 2 百濟・伽耶篇 東潮・田中俊明編
89・2 中央公論社刊
- 巨大古墳と伽耶文化 西嶋定生他著 H4・12 角川書店刊
- 日本の古代遺跡31 埼玉 金井塚良一編著 S61・10 保育社刊
- 全国古墳編年集成 石野博信編 95・11 雄山閣出版刊
- 埼玉県の歴史散歩 埼玉県高等学校社会科教育研究会歴史部会著
93・4 山川出版社刊
- 韓国観光地図 95 韓国観光公社刊
- 埼玉県広域道路地図 90・7 人文社刊
- 埼玉宗教名鑑 産報通信社出版局編 S53・11 埼玉新聞社刊
- 武蔵の古社 菱沼 勇著 S47・3 有峰書店刊